TADOKU JUNIOR　英語で読む日本の昔話　★★★☆☆ ふつう　503語

The Tongue-cut Sparrow

舌切りすずめ

Traditional (tr. A. B. Mitford)（1919年の本）　原文そのまま　朗読：Annoying Twit

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　いじわるばあさんにしたを切られたすずめを、かいぬしのおじいさんとおばあさんがさがしに行きます。おみやげは重いつづらと軽いつづら、どっちをえらぶ？



Once upon a time a cross old woman laid some starch in a basin, intending to put it in the clothes in her wash-tub; but a Sparrow that a woman, her neighbor, kept as a pet, ate it up. Seeing this, the cross old woman seized the Sparrow and, saying "You hateful thing!" cut its tongue and let it go.

When the neighbor woman heard that her pet Sparrow had got its tongue cut for its offense, she was greatly grieved, and set out with her husband over mountains and plains to find where it had gone, crying, "Where does the tongue-cut Sparrow stay? Where does the tongue-cut Sparrow stay?"

At last they found its home. When the Sparrow saw that its old master and mistress had come to see it, it rejoiced, and brought them into its house and thanked them for their kindness in old times. It spread a table for them, and

loaded it with rice wine and fish till there was no more room, and made its wife and children and grandchildren all serve the table.

At last, throwing away its drinking-cup, it danced a jig called the Sparrow's dance, and thus they spent the day. When it began to grow dark, and there was talk of going home, the Sparrow brought out two wicker baskets and said, "Will you take the heavy one, or shall I give you the light one?" The old people replied, "We are old, so give us the light one; it will be easier to carry it." The Sparrow then gave them the light basket, and they returned with it to their home. "Let us open and see what is in it," they said. And when they had opened it and looked, they found gold and silver and jewels and rolls of silk. They never expected anything like this. The more they took out the more they found inside. The supply was inexhaustible, so that the house at once became rich and prosperous. When the cross old woman who had cut the Sparrow's tongue saw this, she was filled with envy, and went and asked her neighbor where the Sparrow lived and all about the way. "I will go, too," she said, and at once set out on her search.

Again the Sparrow brought out two wicker baskets, and asked as before, "Will you take the heavy one, or shall I give you the light one?"

Thinking the treasure would be great in proportion to the weight of the basket, the old woman replied, "Let me have the heavy one."

Receiving this, she started home with it on her back, the sparrows laughing at her as she went. It was as heavy as a stone, and hard to carry, but at last she got back with it to her house.

Then, when she took off the lid and looked in, a whole troop of frightful creatures came bouncing out from the inside, and at once they caught her up and flew away with her.

むかしむかし、いじわるなおばあさんが、せんたくおけの着物につけようと、のりを入れ物に用意しておきました。ところが、となりのおばあさんがかわいがってかっていたすずめが、それを食べてしまいました。それを見たいじわるばあさんは、すずめをつかまえて「にくらしいやつめ！」と言うと、したを切って、にがしてしまいました。

となりのおばあさんは、かわいがっていたすずめが、いたずらのせいでしたを切られたと聞いて、とても悲しみました。そして、おじいさんといっしょに山をこえ野をこえ、すずめのいる所をさがしに出かけました。「したきりすずめ、お宿はどこだ？したきりすずめ、お宿はどこだ？」

とうとう、すずめの家が見つかりました。すずめは、むかしのご主人たちが会いに来てくれたのを見てよろこび、家の中に入ってもらって、むかしやさしくしてもらったお礼を言いました。すずめはおぜんを用意して、お酒やお魚を、もうのせきれないほどならべ、おくさんや子どもやまごたちみんなに、おもてなしをさせました。

とうとう、さかずきを投げすてて「すずめおどり」というおどりをおどり、こうしてその日をすごしました。あたりが暗くなりはじめ、そろそろ帰ろうという話になると、すずめは、あんだかご（つづら）を二つ持ってきて言いました。「重いほうを持っていきますか、それとも、軽いほうをさしあげましょうか？」おじいさんとおばあさんはこたえました。「わたしたちは年よりだから、軽いほうをください。そのほうが持って帰りやすいからね。」そこですずめは軽いつづらをわたし、ふたりはそれを持って家に帰りました。「あけて、中に何が入っているか見てみよう」とふたりは言いました。あけて中を見ると、金や銀やほうせき、それに、まいたきぬのぬのが入っていました。こんなものが入っているなんて、思ってもみませんでした。取り出せば取り出すほど、中からもっと出てきます。いくら出してもなくならないので、家はたちまちお金持ちになり、さかえました。すずめのしたを切ったいじわるばあさんはこれを見て、うらやましくてたまらなくなり、となりのおばあさんのところへ行って、すずめのすんでいる所や道すじを、すっかり聞き出しました。「わたしも行こう」と言って、すぐにさがしに出かけました。

すずめはまた、つづらを二つ持ってきて、前と同じようにたずねました。「重いほうを持っていきますか、それとも、軽いほうをさしあげましょうか？」

つづらが重ければ重いほど、たからもたくさん入っているだろうと思ったおばあさんは、「重いほうをおくれ」とこたえました。

それを受け取ると、おばあさんはせなかにしょって家へ向かいました。すずめたちは、そのすがたを見てわらっていました。つづらは石のように重くて、持って帰るのがたいへんでしたが、やっと家にたどり着きました。

そして、ふたをとって中をのぞくと、おそろしいおばけがぞろぞろとびだしてきて、あっというまにおばあさんをつかまえ、どこかへつれてとんでいってしまいました。

たんご と クイズ 舌切りすずめ

Sparrow すずめ	**tongue** した	**fish** 魚
baskets かご（つづら）	**heavy** 重い	**light** 軽い
gold 金		

Q1 すずめは、どうしてしたを切られてしまった？

① のりを食べたから　② 歌がうるさかったから　③ お米を取ったから

Q2 やさしいおじいさんとおばあさんは、どちらのつづらをえらんだ？

① 重いつづら　② 軽いつづら　③ 両方

Q3 いじわるばあさんが重いつづらをあけると、どうなった？

① 金や銀が出てきた　② 中はからっぽだった　③ おばけが出てきた

こたえ

Q1 ①　いじわるばあさんがせんたく用に用意したのりを、すずめが食べてしまったからです。

Q2 ②　「年よりだから、軽いほうが持って帰りやすい」と言って、軽いつづらをえらびました。

Q3 ③　中からおそろしいおばけがとびだしてきて、おばあさんをつれていってしまいました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19993（Traditional (tr. A. B. Mitford)、1919年）。パブリックドメイン。

挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。

朗読（Web版）：Annoying Twit（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）

和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。